

<資料> 「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト

2022年度「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト報告

柿内真紀・大谷直史

はじめに

教員養成センターでは、2022年度後期に、今年度で通算9年目となる「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト(2022年度 学長裁量経費)を企画実施した。プロジェクトは以下のように、<学び>、<遊び>、<つなぐ>の3つで展開している。なお、昨年度までの2年間は、新型コロナウイルス対策のため、対面をメインとしながら、設定定員を超える場合のオンライン併用、対面のみの場合の参加者数限定、オンラインのみの実施など、調整をしながらおこなっていたが、今年度は対面で実施した。

<学び> 現職教員の方々から、授業づくりやクラスづくりの極意を学ぶこと、教職に就いた後に続く、教員としてのさまざまなキャリア形成のあり方を学ぶことを目標として、授業づくり・学級づくりに力量のある現職教員等を講師に招いた「学びの教室」および、採用後3~4年の若手教員等を講師に招き、教職への不安や希望についてざっくばらんに語り合う「学びの座談会」(8年目)を実施した。今年度の座談会は授業時間割に関係なく学生が参加できるように初めて土曜日に設定し、さらには規模も拡大し、すべての学校種の若手教員を招くことを試みた。なお、若手教員はすべて本学出身である。これらのプログラムでは、教職関連授業と連携した内容やそれらの授業を補完する企画を組み、目指す教師像を参加学生が模索する機会とした。また、本学出身の現職教員を講師に含むことによりロールモデルの提供も目指したものである。講師の招へいについては、鳥取県教育委員会、鳥取市教育委員会と連携している。

「学びの教室」では、今年度も大学の授業では実際の教育実践を学ぶ機会が少ない「学級経営」をテーマとして設定し、すべての学校種の現職教員を講師に招いて実施した。

「学びの教室」(全6回)今年度のテーマ: 現職教員から学ぶ「学級経営」 参加者数のべ342人

- 第1回 10月17日(月) 5限
講師: 牧田圭子 教諭, 赤井美紀子 教諭(私立東みずほ幼稚園)
- 第2回 10月21日(金) 5限
講師: 寺坂朋浩 教諭(鳥取市立中ノ郷中学校)
- 第3回 10月31日(月) 5限
講師: 苗村賢一 教諭(鳥取県立鳥取西高等学校)
- 第4回 11月8日(火) 5限
講師: 西谷智子 教諭(鳥取県立鳥取湖陵高等学校)
- 第5回 11月22日(火) 5限
講師: 藤田則恵 前校長(鳥取県立白兔養護学校)
- 第5回 11月30日(水) 5限
講師: 西田規子 教頭(鳥取市立美保小学校)

(コーディネーター: 教員養成センター特任教員 片山敬子)

「学びの座談会」(全1回) 先輩教師(若手教員)と語る会 参加者数23人

11月26日(土) 午前(講師ごとに各教室にて同時開催)

講師

佐々木絢奈 教諭(私立認定こども園 鳥取第一幼稚園)

森田湧大 教諭(鳥取市立若葉台小学校)

濱部智絵 教諭(鳥取市立桜ヶ丘中学校)〈国語〉

裙本登海 教諭(県立倉吉農業高等学校)〈農業〉

最上日菜 教諭(県立白兔養護学校)

(コーディネーター: 教員養成センター特任教員 片山敬子)

〈遊び〉 ルールの範囲内でより効率的な手段を用いて目的を達成するという形式をとる以上、ゲームと学校での学習は似ている。今年度も、プログラミング教材作りをテーマとして、教職実践演習を受講している学生と共に、教材としてのボードゲームを制作し、発表した。米子市でボードゲームカフェを経営しているお二人から、さまざまなボードゲームのシステムを学んだ上で、『トップバナナ』というボードゲームのアレンジから、プログラミング教材を作成、発表した。4つのゲームが提案され、実際に遊びながら意見交換を行った。



また、本を入りに教職志望者の視野を広げ、学習のデザインやアイデアの幅をひろげていくことを意図した「ブッククラブ」を、1年次の教職入門に該当する授業内に組み込んで実施した。内容は、「教育実習で児童・生徒に読んだ本をもとに語る」ことを前提に小グループで同じ本を読み、各自がテーマを決めて発表し、コメントを出し合い語り合うというものである。取り組みを実施するにあたっては、「読む本リスト」(88冊)を作成して提示し、このリストからグループで選書することとした。毎年度更新しながら作成しているこのリストに掲載されている本は、教員養成センターのライブラリーで閲覧できるようにしている。

「遊びの教室」(全3回) 参加者数のべ52人

第1回 11月28日(月) 5限

講師: 澤和夏己 さん(ボードゲームカフェ「あなたは人狼です」代表)

第2回 12月 5日(月) 5限

講師: 高平勇生 さん(ボードゲームカフェ「あそびCafe コロン」代表)

第3回 12月19日(月) 5限

「教職実践演習」受講者によるプログラミング教材発表

(コーディネーター: 教員養成センター教員 大谷直史)

「ブッククラブ」(「人間と教育～教職入門」授業内) 対象授業受講者数154人

(コーディネーター: 教員養成センター教員 柿内真紀)

<つなぐ> 子どもたちが育っていく社会は多様化、グローバル化している。そこには、地域ごとの課題もあれば、ある社会全体、地球全体の課題もある。そして、学校は社会の変化を反映する。学校には不登校や非行、虐待や発達障害、異なる文化など、生活上のさまざまな課題が持ち込まれる。そうしたことを前提にしながら、これからの社会ではたらく教員として、どのようなつながりを持つのか/つながるのかを考える機会として、毎年度<つなぐ>を企画している。

今年度の「つなぐ教室」は、①教職への道のりを知り・考える機会として、教員を目指す学生を対象にした準備講座、および、鳥取県ではどのような教員が求められているのかをテーマに鳥取県教育委員会主査を招いた講座、②不登校生徒支援および学校における教育相談に携わる方々を招いた講座、③「ローカルとグローバルをつなぐ教員のしごと」として、海外日本人学校等（在外教育施設）経験教員を講師に招き、グローバル人材としての教員（または、グローバル人材を育てる教員）の観点から教員のキャリア形成を促すことを念頭においた講座を開催した。③は今回で9年目となり、主に今年度帰国した、該当する鳥取県内の現職教員等を招くことを継続している。

また今年度初の試みとして、鳥取県教育委員会とともに「トークプログラム（CHA³プログラム）」を実施する。このプログラムは、地域の大人、大学生、中学生がグループになり、働き方や生き方などのテーマについて自由に話し合うものである。中学生が、社会への興味・関心を高めることを目的とし、大学生が中学生にとってのロールモデルとなることも期待される。参加に当たっては鳥取県教育委員会事務局社会教育課による事前研修もおこなわれた。本学からは主に4年次の必修「教職実践演習」の中等クラス受講者が参加した。

「つなぐ教室」(全5回) 参加者数のべ357人

第1回 10月20日(木) 2限 「教員採用試験に向けて」

講師：片山敬子(教員養成センター特任教員)・石本雄真(教員養成センター教員)

第2回 10月27日(木) 5限 「学校内外で児童生徒の心を支える」

講師：山崎沙織 教育相談員(中部教育局・鳥取県立倉吉東高等学校)

第3回 11月 1日(火) 5限 「ローカルとグローバルをつなぐ教員のしごと(その1)」

講師：奥田恵子 教諭(鳥取県伯耆町立溝口小学校・前フランクフルト日本人学校)

第4回 11月14日(月) 5限 「フリースクールでの不登校支援」

講師：間屋口貴仁 施設長(フリースクール ちゃれすくーる)

第5回 12月 2日(金) 5限 「教師としての矜持」

講師：木下公明 鳥取市立浜村地区公民館長(元鳥取市立北中学校長・元鳥取市教育委員会次長)

第6回 12月 9日(金) 5限 「ローカルとグローバルをつなぐ教員のしごと(その2)」

講師：飯田宏信 教諭(鳥取県立倉吉養護学校・前台北日本人学校)

第7回 1月24日(火) 5限 「鳥取県教育の現状と教員採用試験について」

講師：長尾芳春 主査(鳥取県教育委員会事務局教育人材開発課)

(第2・4回 コーディネーター：教員養成センター教員 石本雄真)

(第3・5～7回 コーディネーター：教員養成センター特任教員 片山敬子)

「トークプログラム」(全3回) 参加者数のべ84人

11月13日(日) 鳥取市立東中学校(中学生125名, 大学生32名, 地域の大人25名)

11月19日(土) 鳥取市立千代南中学校(中学生20名, 大学生24名, 地域の大人11名)

12月 3日(土) 鳥取市立気高中学校(中学生45名, 大学生28名, 地域の大人21名)

(コーディネーター：教員養成センター教員 大谷直史)

柿内真紀(鳥取大学教員養成センター長) ※「学び・遊び・つなぐ」プロジェクト代表
大谷直史(鳥取大学教員養成センター)